

銅山だより

No. 76
発行 平成27年3月
国土交通省 東北地方整備局
新庄河川事務所
銅山川砂防出張所



平成26年度 工事完了報告



銅山川流域肘折護岸工事

本工事では、土砂流出を防止するため昨年施工した護岸の両端を約100m延長、河床洗掘を防止するための根固め工を施工しました。

工事現場は、平成24年に崩落した斜面の下に位置しており、再び崩れた場合作業員に危険が及ぶことから、斜面に伸縮計を設置し、安全を確保しながら施工しました。

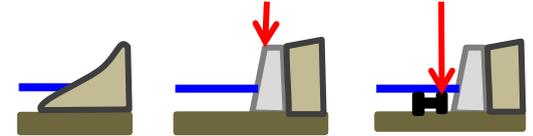
<施工完了>



沼田建設(株)

工期：H26.3.12～H27.1.5

流出した土砂を 護岸工 と 根固め工 で抑止



根固め工とは・・・

護岸は基礎が洗掘されると破壊され決壊の原因になるため、護岸基礎工の前面にコンクリートブロックなどを設置し、河床洗掘を防止するもの。

なべたけざわ

角川流域鍋嶽沢砂防堰堤工事

(株)新庄・鈴木・柴田組

工期：H26.3.11～H27.1.5

本工事では、砂防堰堤を施工するための工事用道路を造成し、水路工を施工しました。急斜面での作業が多いことから、足場の設置が不要な残存型枠を用いて施工するなど、作業員の安全面にも配慮し施工しました。

2月25日に開催された「安全施工技術」研究発表会では、現場代理人の高橋慎吾さんが、本工事での安全対策や技術面で工夫した点を発表し、最優秀賞を受賞しました。

<施工途中>



<施工完了>



残存型枠

残存型枠とは・・・

コンクリートを打設し養生した後、取り外す必要がない型枠のこと。そのまま構造物の一部となる。

残存型枠の良い点・・・

- ①工期を短縮できる
- ②コストを削減できる
- ③建設廃棄物を抑制できる など

暖かくなっても油断大敵!



雪崩とは、斜面に積もった雪が、重力で下方に滑り落ちる現象です。
雪崩には「表層雪崩」と「全層雪崩」の2種類があります。

- 表層雪崩・・・1、2月頃の厳寒期に多く発生。
新幹線並みのスピード（時速100～200km）。
山麓から数kmに達し、大災害になることもある。
- 全層雪崩・・・春先の融雪期に多く発生。
自動車並みのスピード（時速40～80km）。
斜面の固く重たい雪が滑り落ち、家屋の倒壊などの被害が多い。

2月21日、秋田県の雄勝トンネル付近で発生した雪崩は、融雪期に多発する全層雪崩と見られています。全層雪崩は暖かくなってきた今が最も発生しやすく、注意が必要です。斜面の雪に亀裂を発見した際は、決して近寄らず、すぐに避難しましょう。

★全層雪崩が起きやすい条件★

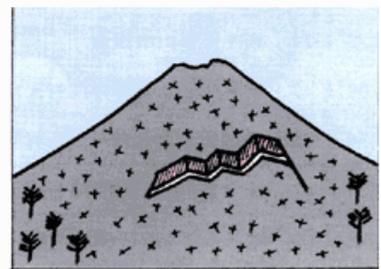
▼以前も同じ場所で雪崩がおきている



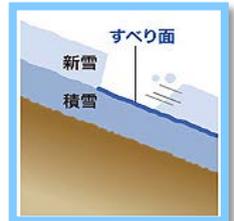
▼気温が上昇している



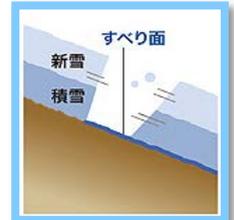
▼斜面の雪に亀裂が発生している



→ 表層雪崩



→ 全層雪崩



冬も目指せ 事故ゼロ!

昨年10月27日（月）、2回目の新庄地区安全パトロールを行いました。今回は、職員と請負業者の計35名で4つの現場を点検しました。各現場において、危険箇所を早急に改善し施工を進めています。今年度も残りわずかとなりましたが、新庄地区全工事において「1年間無事故!」を達成できるよう、最後まで気を引き締めて施工して参ります。

↓ 現場点検



鍋嶽沢砂防堰堤工事

↓ 現場点検



構造物等補修ほか工事



← 検討会

★お問い合わせ先★

「銅山だより」に関するご意見や出張所の仕事に関する質問などをお待ちしております。
お気軽にご連絡ください♪

新庄河川事務所 銅山川砂防出張所

〒996-0212
最上郡大蔵村大字清水字堀川2346
TEL: 0233-75-2204
FAX: 0233-75-3023

